

平成 20 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社 東 和 銀 行
代 表 者 名 取締役頭取 吉 永 國 光
(コード番号 8558 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役財務経理部長 田村盛司
TEL (027) 234-1111

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 5 月 20 日に公表しました平成 21 年 3 月期第 2 四半期の業績予想を以下のとおり修正いたします。

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(1) 単体業績予想の修正 (単位：百万円、%)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	18,300	500	500
今回修正予想 (B)	17,860	△550	520
増減額 (B-A)	△440	△1,050	20
増減率	△2.4	△210.0	4.0
前期実績 (平成 19 年 9 月期)	19,256	△2,598	△3,186

(2) 連結業績予想の修正 (単位：百万円、%)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	21,000	550	550
今回修正予想 (B)	20,480	△1,110	860
増減額 (B-A)	△520	△1,660	310
増減率	△2.5	△301.8	56.4
前期実績 (平成 19 年 9 月期)	21,953	△2,258	△2,958

(3) 業績予想修正の理由

① 単体業績

経常利益は、信用コストが前回予想より減少する見込みですが、株式市場の混乱等の影響を受け株式の減損損失を 17 億円計上したことから、当初予想を 10 億円程度下回る見込みとなりました。なお、当行はサブプライムローン等に関連した商品の保有はありません。一方、中間純利益は、信用リスク管理に努めた結果、特別利益に貸倒引当金残高の減少による利益 7 億円を計上したことや償却債権取立益の増加などにより、ほぼ当初予想どおりとなりました。信用コストが 7 億円にとどまったことが最終利益がほぼ予想どおりとなった要因です。

② 連結業績

連結の経常利益は、単体で株式の減損損失を 17 億円計上したことなどを主因とし当初予想を 16 億円程度下回る見込みとなりました。一方、中間純利益は、単体の償却債権取立益に加え、子会社(東和フェニックス)も償却債権取立益を計上したことなどから、当初予想を 3 億円程度上回る見込みとなりました。

2. 平成 21 年 3 月期通期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

平成 21 年 3 月期通期の業績予想につきましては、現在集計中であるため、明らかになり次第お知らせいたします。 以上